

國學院大學學術情報リポジトリ

二重ハソウについて（補遺）：分布とその背景

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學 公開日: 2024-03-13 キーワード (Ja): 二重ハソウ, 渡来系氏族, 鈴, 鈴の音, 葬送の儀礼 キーワード (En): 作成者: 光江, 章, Mitsue, Akira メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000171

二重隄について（補遺）

— 分布とその背景 —

光江 章

はじめに

二重隄については、かつて集成と分析を行った^①。今回は、そこでの遺漏分とその後の発掘調査による資料の蓄積を含めて、再度検討を行うこととした。

第1章 二重隄の概観

二重隄は、前回の集成において、60例を数えた（光江

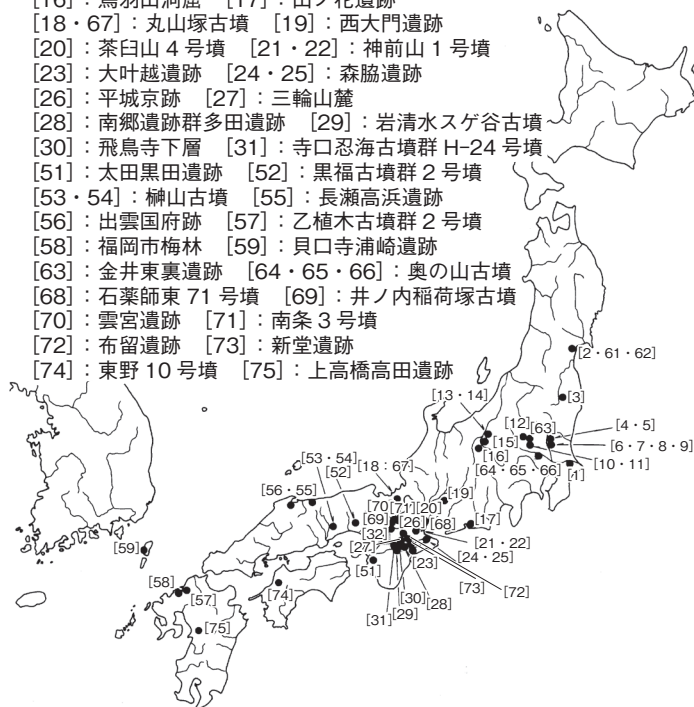
2014）。今回は、遺漏や新たな資料を加えて、75例となった。

（1）出土地

これまでは、東北地方南部の宮城県から九州地方北部の長崎県までの分布が認められたが、新たに熊本県熊本市上高橋高田遺跡例〔第4図75〕が確認されたことで、分布域が僅かに広がった。

出土地は、畿内中心（30例、40.0%）であることに変わりはない。また、西日本51例（68.9%）、東日本23例（31.1%）と、東日本からの出土は少ない（宮城3例・福島1例・栃木6例・群馬4例・埼玉3例・千葉1例・静岡1例・長野4例）である。

- [1] : 香取市大倉丁子 [2・61・62] : 南小泉遺跡
 [3] : 北山田遺跡 [4・5] : 塚山南古墳
 [6・7・8・9] : 権現山遺跡
 [10・11] : 荒砥北三本堂Ⅱ遺跡 [12] : 黒井峯遺跡
 [13・14] : 金鎧山古墳 [15] : 森 2 号墳
 [16] : 鳥羽山洞窟 [17] : 山ノ花遺跡
 [18・67] : 丸山塚古墳 [19] : 西大門遺跡
 [20] : 茶臼山 4 号墳 [21・22] : 神前山 1 号墳
 [23] : 大叶越遺跡 [24・25] : 森脇遺跡
 [26] : 平城京跡 [27] : 三輪山麓
 [28] : 南郷遺跡群多田遺跡 [29] : 岩清水スゲ谷古墳
 [30] : 飛鳥寺下層 [31] : 寺口忍海古墳群 H-24 号墳
 [51] : 太田黒田遺跡 [52] : 黒福古墳群 2 号墳
 [53・54] : 榊山古墳 [55] : 長瀬高浜遺跡
 [56] : 出雲国府跡 [57] : 乙植木古墳群 2 号墳
 [58] : 福岡市梅林 [59] : 貝口寺浦崎遺跡
 [63] : 金井東裏遺跡 [64・65・66] : 奥の山古墳
 [68] : 石薬師東 71 号墳 [69] : 井ノ内稲荷塚古墳
 [70] : 雲宮遺跡 [71] : 南条 3 号墳
 [72] : 布留遺跡 [73] : 新堂遺跡
 [74] : 東野 10 号墳 [75] : 上高橋高田遺跡



第 1 図 二重墓の分布 (2) 光江2014 : 第 4 図を改変

This is a detailed black and white map of the Osaka region in Japan. The map shows a dense network of roads and railways connecting various cities and towns. Major cities labeled include Osaka (大阪市), Kyoto (京都市), and Kobe (神戸市). Other significant locations include Sakai (堺市), Suita (Suita市), and Toyonaka (豊中市). The map also shows the Kinki region, including Nara (奈良市) and Uji (宇治市). A scale bar at the bottom indicates distances in kilometers (0 to 7 Km). The map is oriented with North at the top.

第2図 二重隼の分布 (3): 大阪

出土遺跡(遺構)では、古墳 24 例(32.4%)、窯址 11 例(14.9%)、集落址 16 例(21.6%)、溝 4 例(5.4%)、祭祀遺構 3 例(4.1%)、包含層 4 例(4.0%)、その他 12 例(16.2%)である。

(2) 時期

時期は、古式とした A 群が 5 世紀前半(TK 208 型式期以前)、新式とした B 群が 6 世紀代に位置づけられる。

(3) 型式分類(第 3 図)

体部…透孔の配置により、以下の 3 つに分類した。

I 類―体部中央の文様帯などにより、透孔が上下に二分されるもの

II 類―透孔が二分されないで、体部上半から下半にかけて連続して穿たれているか、もしくは不規則に配されているもの

III 類―透孔をもたないもの

口縁部…複合口縁と単純口縁に二つに分類した。

1 類―複合口縁
2 類―単純口縁

1 類は 27 例(36.0%)、2 類は 2 例(2.7%)…「1 丁子遺跡(仮)」

千葉」・「19 西大門遺跡…愛知」である。口縁部は、単純口縁が 2 例のみであり、複合口縁が通有であると思われる。⁽²⁾
底 部…丸底と平底の二つに分類した。

丸底は 16 例(21.3%)、平底は 17 例(22.7%)である。底部の形態が不明であるものが多い。

(4) 成形

成形は、「10 荒砥北三木堂Ⅱ遺跡…群馬」・「15 森 2 号墳…長

野」・「16 鳥羽山洞窟…長野」・「26 平城宮跡…奈良」・「27 三輪山

麓…奈良」のように、外側の体部に内側の体部を接合している。「72 布留遺跡…奈良」は、体部の外側にヘラキズが残っている。これについて、「外側の体部に透しを開けたときに付いた」としており、二重樋の製作工程を窺わせる一例である。⁽³⁾

(5) まとめ

二重樋は、今回の資料を含めて、75 例を数える。分布は、東北鈴付土器は、関東地方南部(宮城)から九州地方南部(熊本)であり、鈴付土器の分布と重さなっていることを追認できた。⁽⁴⁾

第2章 二重甕の内容

今回新たに報告する二重甕は、次の15例である。

〔61〕南小泉遺跡第67次調査…宮城県仙台市 IV区SI19 1層 (E-001) 出土 (水上2014)。第30次調査で出土した〔2〕と同様に、堅穴住居址からの出土である。体部上半の破片で、透孔の上に凹線が施されるが、全体の形状は不明である。

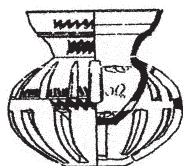
〔62〕南小泉遺跡第67次調査…宮城県仙台市 IV区SD14 1・2層 (E-003) 出土。体部の破片で、透孔の上に凹線が施されるが、全体の形状は不明である。

南小泉遺跡では、これまで二重甕1点〔2…第30次調査SI14〕の出土が知られていた。

〔63〕金井東裏遺跡…群馬県渋川市 調査区の4区北西隅に位置する完形の土器が集積された状態で検出された3号祭祀遺構から出土している (杉山他2019)。体部上半に文様帯がある。上と下の透孔の間には、沈線や文様帯等は認められない。

〔64〕奥の山古墳…埼玉県行田市 全長664mの前方後円墳で、盾形の周溝をもつ前方後円墳である。I区造出し出土。時期は、6世紀中頃に位置付けられている (佐藤2014)。二重甕は、

【体部】



I類



II類

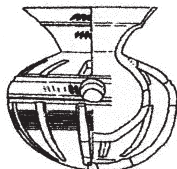


III類

【口縁部】

1類
複合口縁2類
単純口縁

【底部】



丸底



平底

第3図 二重甕の型式分類

体部片である。器高(残存) 6.9 cm・径 12.4 cmを測る。3条の凸線直下に櫛歯刺突文を施す⁽⁵⁾。

〔65〕奥の山古墳…埼玉県行田市 内湾する小破片。側面1箇所に通孔をもつ。櫛歯刺突文も僅かに認められる。

〔66〕奥の山古墳…埼玉県行田市 内湾する小破片。2方向に通孔をもつ。透孔間の角度が71°であることから5単位の透孔が想定されている。

〔67〕丸山塚古墳…福井県若狭町(旧上中町) 径50mの円墳で、埋葬施設は、畿内系の横穴式石室である。遺物は、石室内からの出土である。これまで1点〔18〕の出土が知られていたが、新たに報告されたものである。体部の外面中央に刺突文が施され、その上下に通孔が巡る。内側の体部は不明である。時期は、陶器田辺編年のTK10～TK43型式期とされている(橋本2004)。

〔68〕石薬師東古墳群71号墳…三重県鈴鹿市 径23mの円墳で、南周溝から出土している(服部2000)。長方形の透孔が、千鳥状に穿たれている。時期は、陶器田辺編年のMT15型式期とされている。乙植木2号墳〔57…福岡〕、嶋上郡衙周辺遺跡〔32…大阪〕、貝口寺浦崎遺跡〔59…長崎〕のように、装飾器台とも考えられる。石薬師東71号墳周辺では、筒形器台が多数

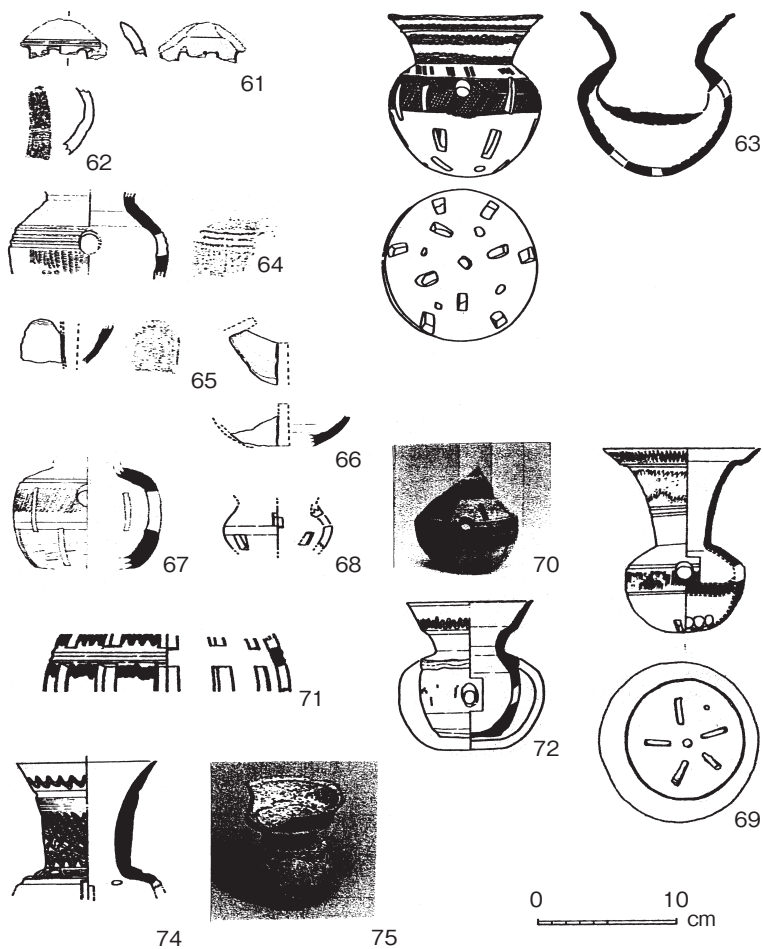
出土しており、本例が筒形器台の一部となる可能性もある⁽⁶⁾(第5図参照)。

〔69〕井ノ内稻荷塚古墳…京都府長岡京市 全長約46m・後円部径29.5m・高さ4m、前方部長さ16.5m・幅29.5m・高さ3.5mの規模をもつ前方後円墳である。埋葬施設は、後円部で横穴式石室、前方部で木棺直葬が認められる。時期は、6世紀前半である(大阪大1996)。二重廻は、横穴式石室からの出土と思われる。

〔70〕雲宮遺跡…京都府長岡京市 SD214から出土している(山本1999)。中央にある1条の凹線と文様帯により、透孔が上下に二分されており、体部1類に分類できる。

〔71〕南条3号墳…京都府向日市 7基からなる南条古墳群の3号墳(円墳…直径23.5m)から出土している(都出1983)。遺物は、墳頂部の盗掘坑付近で採集されたもので、中央の2条の突帯により透孔が上下に二分されており、体部1類に分類できる。『向日市史』では、器台脚部としている。径22.0cmは、陶器・高蔵22号窯〔33〕の径21.8cmを上回る。「器台あるいは壺形土器の脚部の胴部」⁽⁷⁾、もしくは「筒形器台の裾部」との見解もあるが、ここでは二重廻として提示しておく。

〔72〕布留遺跡…奈良県天理市 天理教神殿東・西礼拝場地区の西地区第3層(FL203区)の出土である。形態は、体部の外側



第4図 二重甕実測図（4）

第1表 二重隠出土一覽 (2)

No.	插图番号	県名	市町村名	遺跡名	種別	検出遺構	体 部	口縁部	底 部	文 献	
61	第4図-61	宮城県	仙台市若林区南小泉	南小泉遺跡 (67次調査)	集落	Ⅳ区 SII9	—	—	—	仙台市教委	2014
62	第4図-62	宮城県	仙台市若林区南小泉	南小泉遺跡 (67次調査)	集落	Ⅳ区 SD14	—	—	—	仙台市教委	2014
63	第4図-63	群馬県	渋川市	金井東裏遺跡	祭祀遺構	4区 土器集積遺構	I	I	丸	群馬県埋蔵文化財調査事業団	2019
64	第4図-64	埼玉県	行田市	埼玉古墳群奥の山古墳	古墳	造り出し	I	—	丸?	さいたま史跡の博物館	2014
65	第4図-65	埼玉県	行田市	埼玉古墳群奥の山古墳	古墳	造り出し	—	—	—	さいたま史跡の博物館	2014
66	第4図-66	埼玉県	行田市	埼玉古墳群奥の山古墳	古墳	造り出し	—	—	—	さいたま史跡の博物館	2014
67	第4図-67	福井県	三方上中郡若狭町	丸山塚古墳	古墳	横穴式石室	II	—	—	上中町教育委員会	2004
68	第4図-68	三重県	鈴鹿市	石薬師東古墳群	古墳	71号墳 南周溝	I	—	—	三重県埋蔵文化財センター	2000
69	第4図-69	京都府	長岡京市	井ノ内稲荷塚古墳	古墳		III	I	丸	長岡京市教育委員会	2002
70	第4図-70	京都府	長岡京市	雲宮遺跡	溝	SD214	I	—	平	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	1999
71	第4図-71	京都府	向日市	南条古墳群	古墳	3号墳	—	—	—	都出比呂志	1983
72	第4図-72	奈良県	天理市	布留遺跡	包含層	西地区第3層	—	I	平	埋蔵文化財天理教調査団	1995
73	第4図-73	奈良県	橿原市	新堂遺跡	?		?	?	?	橿原市教育委員会	2014
74	第4図-74	愛媛県	松山市	東野古墳群	古墳	10号墳	—	I	—	愛媛県教育委員会	1979
75	第4図-75	熊本県	熊本市	上高橋高田遺跡	集落		—	I	平?	熊本県立装飾古墳館	1994

の器壁がない。権現山遺跡「7…栃木」も本例と同様内側の体部のみである(第5図参照)。全て欠失しており、全体の器形は不明である。太田黒田遺跡「51…和歌山」は、頸部に櫛描波状文が描かれているが、本例は認められ共伴している遺物に、脚部に10個の透孔をもつ高坏や火焰形の透孔を持つ高坏が出土している。

〔73〕新堂遺跡…奈良県橿原市 二又・釜焼地区川跡出土 現在整理作業中のため、詳細は不明である。⁽⁹⁾

〔74〕東野10号墳…愛媛県松山市 直径19×23mと思われる円墳の周溝からの出土している。口縁部から体部上半にかけての破片である。残存高123cm、口径125cm、体部径138cmを測る。形態は、やや長い直立気味の頸部から、外反して開く口縁部へと続く。口縁端部はやや尖り気味であるが、丸く収まる。口縁部には、5本1条の櫛描波状文、頸部には全面にカキ目後櫛描波状が施されている。この単位は不明である。体部には、長方形の透かしと円孔が穿たれている(阪本1979)。器形は忍海寺口古墳群「31…奈良」出土資料(新庄町1988)、口縁部は屈曲が少ない点が三島神社古墳出土資料に近い(森ほか1972…第5図参照)。時期は、この三島神社古墳の須恵器甕を参考にすれば、MT15～TK10型式に比定されるものと考ええる。

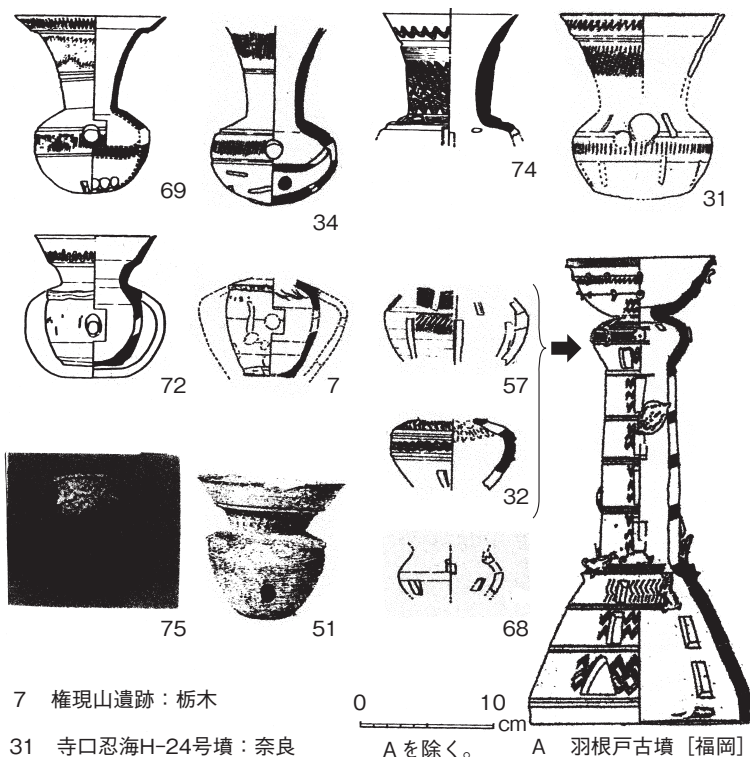
〔75〕上高橋高田遺跡…熊本県熊本市 団地建設に伴う調査で、縄文時代後期から鎌倉時代前期の遺構が検出されている(前田1992)。形態は、太田黒田遺跡「51…和歌山」、権現山遺跡「7…栃木」に似る(第5図参照)。外側の体部は失われており、形状は不明である。

第3章 まとめ

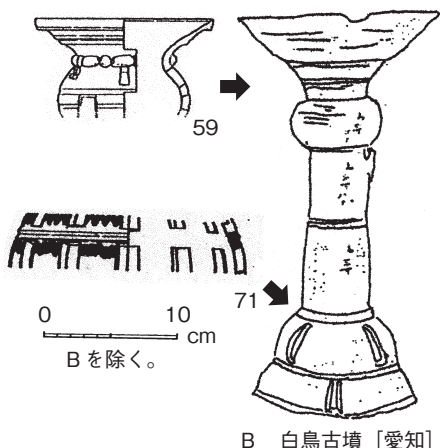
分布は、東北地方南部(宮城)から九州地方中部(熊本)にかけてで、特に畿内とその周辺地域に多い。

出土地の種別では、古墳は東日本では8例(13.5%)、西日本では16例(18.9%)を数える。集落(住居址)は東日本では11例(16.2%)、西日本では4例(4.1%)である。窯址は11例(14.7%)であるが、これはすべて西日本(大阪南部陶器古窯址群)である。

これらを詳細に見ると、古墳からの出土は75例のうち24例(32.0%)と高い比率を示す。二重甕を副葬している古墳は、各地域の首長墓ではなく中小規模の前方後円墳や円墳で、古墳の規模や墳形などで一定の規制を受けていると思われる、首長に次ぐ層が被葬者であった可能性が考えられる。各地の様相を見る



- 7 権現山遺跡：栃木
- 31 寺口忍海H-24号墳：奈良
- 32 嶋上郡衙周辺遺跡：大阪
- 34 福田遺跡：大阪
- 51 太田黒田遺跡：和歌山
- 57 乙植木2号墳：福岡
- 59 貝口寺浦崎遺跡：長崎
- 68 石薬師東71号墳：三重
- 69 井ノ内稲荷塚古墳：京都
- 71 南条3号墳：京都
- 72 布留遺跡：奈良
- 74 東野10号墳：愛媛
- 75 上高橋高田遺跡：熊本



第5図 二重甕の類例

第2表 二重甕と渡来系遺跡・遺構・遺物

二重題 番 号	遺跡・遺構・遺物		遺跡名	県名
[8]	積石塚・合掌形石室		金鎧山古墳	長野
—	土 器	軟質土器・軟質系土器	—	—
[16]		陶質土器	烏羽山洞窟	長野
[42]			榑山古墳	岡山
[43]			榑山古墳	岡山
[70]		韓式系土器	雲宮遺跡	京都
[72]			布留遺跡	奈良
[74]			新堂遺跡	奈良
[31]		特殊須恵器（鈴付土器）	乙植木古墳群 2 号墳	福岡
[31]		特殊須恵器（平底瓶）	黒井峯遺跡	群馬
[64]			埼玉古墳群奥の山古墳	埼玉
[65]			埼玉古墳群奥の山古墳	埼玉
[66]			埼玉古墳群奥の山古墳	埼玉
[31]			寺口忍海古墳群H-13号墳	奈良
[24]		鑄造鉄斧・鑄造斧形品	岩清水スゲ谷古墳	奈良
[31]	寺口忍海古墳群H- 5 号墳		奈良	
[31]	寺口忍海古墳群H-19号墳		奈良	
[57]	乙植木古墳群 3 号墳		福岡	
[57]	サルボ（鏝）	乙植木古墳群 2 号墳	福岡	
[57]	鑷子	乙植木古墳群 3 号墳	福岡	
[42]	馬形帯鉤	榑山古墳	岡山	
[43]		榑山古墳	岡山	
[67]	双鳳環頭・三葉環頭	丸山塚古墳	福井	
[19]		丸山塚古墳	福井	

※亀田2019を参考に作成。

と、関東地方の奥の山古墳〔64・65・66〕が含まれる埼玉古墳群では、5世紀中頃に稲荷山古墳（前方後円墳：120m）が出現し、二子山古墳（前方後円墳：132m）、鉄砲山古墳（前方後円墳：107m）、將軍山古墳（前方後円墳：90m）と首長墓が続く。奥の山古墳はこの首長墓系譜とは異なり、これらを下回る規模の古墳である。畿内地方の井ノ内稲荷塚古墳・南条3号墳が含まれる京都・乙訓古墳群では、4世紀前半に元稲荷古墳（前方後方墳：94m）が向日グループ南群に出現し、その後北群の寺戸大塚古墳（前方後円墳：98m）、南群の五塚原古墳（前方後円墳：98m）、北群の妙見山古墳（前方後円墳：120m）、長法寺・今里グループの今里車塚古墳（前方後円墳：74m）、同グループの恵解山古墳（前方後円墳：120m）と首長墓が続く。井ノ内稲荷塚古墳〔69〕・南条3号墳〔71〕は、この首長墓系譜とは異なっており、向日グループには規模や墳形に規制が加えられたものと考えられる。これは、福井・若狭地方で前方後円墳の建造が終焉を迎えた後の6世紀中頃に、丸山塚古墳（円墳）〔18・67〕が築かれている点からも窺えよう。集落（住居址）15例は、東北地方から関東地方に多く分布が認められ、黒井峯遺跡〔3・群馬〕や金井東裏遺跡〔63・群馬〕のように、集落内の祭祀遺構からの出土も存在する。また、窯址11例（147%）は、すべて

大阪南部の陶邑窯跡群である。これに対し、二重甕を除く特殊須恵器^⑩は、陶邑窯址群以外の窯址からの出土が25箇所40点^⑪を数え、その分布は群馬3・埼玉1・静岡1・石川3・福井1・愛知1・三重1・滋賀1・大阪1・兵庫3・岡山3・福岡6箇所と西日本での出土が多い（60%）。

二重甕は、朝鮮半島の百済地域を中心に分布する有孔小壺とは異なり、朝鮮半島で認められない器種である。二重甕のB群（6世紀代^⑬）は、角坏との共伴例が多く、「窯址周辺地域と朝鮮半島との強い関係を示唆する」とされている（木下2014）。二重甕と渡来系の資料との関わりは、以前にも述べたが（光江2014）、これと亀田修一の論考（1994・2020）を参考に作成したのが第2表である。この表からも明らかのように、両者には関連性が存在するようである。

これを含めて考えると二重甕は、渡来系氏族が葬送の際に「音」を重視する故地での習俗を体现するために、葬送儀礼の中で液体（酒？）を注ぐための「甕」と招魂のために鳴らす「鈴」とを合体させた器物として生み出し、音が鳴る酒器として用いたものと考ええる。岩清水スゲ谷古墳〔29〕例では、内側と外側の体部の間に土玉3個が認められ、振ると音がするものと思われる。このほか、黒井峯遺跡〔12〕、南郷遺跡群多田遺跡〔28〕、

福田遺跡「34」も鈴の機能があることが明らかである。その入手にあたっては、須恵器製作集団に製作を依頼し、焼成して出来上がった製品を古墳に埋納したものと想定する。また、二重竈を用いる際に、東日本では古墳に埋納するよりも、集落（住居址）内のマツリの方が多かったようである。

時期は、古式のA群（5世紀前半）―塚山南古墳「4・5」、黒井峯遺跡「12」、金鎧山古墳「13」、鳥羽山洞窟「16」、西大門遺跡「19」、神前山1号墳「21」、平城京跡「26」、三輪山麓「27」、南郷遺跡群多田遺跡「28」、金井東裏遺跡「63」と、新式のB群（6世紀代）―丸山塚古墳「18・67」、岩清水スゲ谷古墳「29」、寺口忍海古墳群H・24号墳「31」、福田遺跡「34」、井ノ内稲荷塚古墳「69」、東野10号墳「74」の二群に大別されるが、「多窓のものが型式的に先行する」ともされているように、透孔の粗密や透孔配置の省略化に注目する視点もあるが、6世紀中頃に位置付けられる福井・丸山塚古墳「18・67」をみると、多窓・密な透孔をもって古く位置づけることは必ずしも首肯はできない。A群とB群の時間差は、渡来系氏族が製作を依頼する段階が異なっていたことを示しており、日本に渡来した時期による違いを表したものであろう。渡来系氏族には、朝鮮半島での動乱を逃れて、倭国に渡った人々も数多く含まれていたと思われる、

その時々々の朝鮮半島の状況が反映されている可能性もある。

二重竈は、第2表でも示したように、渡来系氏族との関連を窺わせる。奈良・布留遺跡の三島（里中）地区「72」でも、渡来系氏族による馬匹生産が想定されている¹⁷。また、鈴付遺物である鈴鏡出土が集中する東日本（東山道地域）では、渡来系氏族と馬匹生産に関連づけることが多いが、鈴鏡の存在を全て馬匹生産に結びつけることはできない¹⁸。

今後は、朝鮮半島において、鈴の音を葬送に用いる儀礼が存在したかどうかも含めて検証し、鈴のほか鈴付土器・鈴付馬具・鈴付刀装具など各種鈴付遺物の分布の在り方を明らかにするとともに5〜6世紀の倭国と朝鮮半島情勢との関連を見ていく必要がある。

なお、本稿の執筆にあたり、次の方々から資料の検討及び収集に際し御協力や御助言を賜った。末尾ながら、記して感謝の意を表する次第である。

袖ヶ浦市中央図書館・（公財）千葉原教育振興財団図書室・（財）長岡京市埋蔵文化財センター・石坂泰士（橿原市教育委員会）・井出耕二・入江文敏・内山敏行（公財）とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター）・大野左千夫・桜岡正信（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）・神啓崇（福岡市埋蔵文化財課）・助

川諒 (袖ヶ浦市教育委員会)

(敬称略)

最後ではあるが、二〇一四年一月、(公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター在職中に亡くなった田代隆氏には、二重甕の資料収集を始め、大学在学中から一方ならぬお世話になった。ここに、これまでのお礼を申し上げるとともに、拙稿を御仏前に捧げることとしたい。

〔註〕

- (1) 光江2014 大場磐雄『樂石雜筆』の記述を参考に、二重甕の集成と分析を行った。
- (2) 「」内の番号は、(光江2014)の第6～8図で用いた番号と同様である。以下、同じ。
- (3) 山内1995
- (4) 鈴付土器は、57点確認されている。分布は、南関東地方(千葉)から九州地方南部(熊本)に及ぶ。鈴付土器の中に二重甕を含む考え方もあるが、本稿では別に扱うこととしたい。
- (5) 佐藤2014では、写真図版68で「64」と「65」が接合されている。
- (6) 乙植木2号墳「57・福岡」石山他1977 P.20では、二重甕としている。
- (7) 都出1983 P.162
- (8) 平良1986 P.513

(9) 石坂泰士氏(樫原市教育委員会)のご指示による。

(10) ここでは、特殊須恵器の中に鈴付土器を含める。

(11) 鈴付土器―久居4号窯址(三重)・1箇所1点

角坏―興道寺窯址(福井)・赤根川金ヶ崎窯址(兵庫)・鏡谷窯址(滋賀)・3箇所3点

平底瓶 辻小屋東窯址(群馬)・菅ノ沢窯址(群馬)・入宿遺跡灰原(群馬)・桜山8号窯址(埼玉)・林タカヤマ窯址(石川)・戸津六ヶ

岡窯址(石川)・桜井谷2・17窯址(大阪)・神野大林窯址(兵庫)・赤根川金ヶ崎窯址(兵庫)・寒田窯址(岡山) 3点・10

箇所12点
三足土器―岩崎50号窯址(愛知)・林オオカミダ2号窯址(石川)・寒田窯址(岡山) 3点・小田浦A地点1号窯址(福岡) 5点・中通C窯址(福岡)・井手ヶ浦窯址(福岡) 3点・天観寺窯址(福岡) 2点・7箇所16点

革袋形土器―茶臼山東1号窯跡(福岡)・鞍投窯址(福岡)・2箇所2点
特殊扁壺―衣原窯址(静岡) 2点・寒田窯址(岡山) 4点・2箇所6点
数人の方を通じて、韓国の研究者に問い合わせていただいたが、朝鮮半島では二重甕の出土は認められないとのことであった。

(12) 光江2014 A群(5世紀前半)とB群(6世紀代)に、二分される。

(13) 右島2019 P.236では、東北の渡来系遺跡として、南小泉遺跡第30次調査出土の二重甕「2」が取り上げられている。

(14) 木下2011 P.231

(15) 註(14)に同じ。

(16) 中久保2017

(17) 全国で確認されている鈴鏡18面のうち、東山道(長野)・18面・群馬(23面)では41面(22%)が、出土している。

〔19〕愛媛県では、9面（50%）が出土している。その性格については、馬匹生産と関連するとは想定できず、別の要因を考える必要がある（光江2022）。

【資料参考文献】

- 〔61・62〕南小泉遺跡第67次調査
水上匡彦・横井奏 2014 『南小泉遺跡 第67次発掘調査報告書』 仙台市教育委員会
- 〔63〕金井東裏遺跡
杉山秀宏・大木伸一郎・宮下寛・石田真・田中良之・米本史織・舟橋京子・米田穰 2019 『金井東裏遺跡《古墳時代編》本文編2』（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 〔64・65・66〕奥の山古墳
佐藤康二 2014 『史跡埼玉古墳群奥の山古墳・発掘調査・保存整備事業報告書』 埼玉県立さきたま史跡の博物館
- 〔67〕丸山塚古墳
橋本英将・青木敬 2004 『V 附編 丸山塚古墳出土の須恵器』 『市場古墳』 上中町教育委員会
- 〔68〕石薬師東古墳群71号墳
服部芳人・船越重伸 2000 『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡』 三重県埋蔵文化財センター
- 〔69〕井ノ内稲荷塚古墳
大阪大学稲荷塚古墳発掘調査団 1996 『長岡京における後期古墳の調査』 大阪大学稲荷塚古墳発掘調査団
- 〔70〕雲宮遺跡

山本輝雄 1999 「左京第44次（7NM-TD-5地区）調査略報」 『長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成9年度』 巻頭図版三（2） pp.176-181（財）長岡京市埋蔵文化財センター

〔71〕南条3号墳
都出比呂志 1983 「五世紀における古墳の様相」 『向日市史』 上巻 pp.160-162・P.161

平良泰久 1986 「乙訓の初期須恵器」 『長岡京古文化論叢』 pp.541-558、論文のP.543

〔72〕布留遺跡
山内紀嗣 1995 『布留遺跡三島（里中）地区発掘調査報告書』 埋蔵文化財天理教調査団

〔73〕新堂遺跡
田原明世 2014 「V 普及啓発事業」 『平成24年度「2012年度」 檀原市文化財調査年報』 檀原市教育委員会

〔74〕東野10号墳
阪本安光 1979 『東野遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』 愛媛県教育委員会

〔75〕上高橋高田遺跡
前田軍治 1992 『上高橋高田遺跡1 第1次調査区発掘調査概報』 熊本市教育委員会

前田軍治 1994 『企画展図録4…器は語る 須恵器の美と技と』 熊本県立装飾古墳館

【参考文献】（五〇音順）
石山勲編 1977 『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告』 X

- 亀田修一 1994 「考古学から見た渡来人」『古文化談叢』第30号 pp.747-778 古文化談叢会
- 亀田修一 2020 「列島各地の渡来系文化・渡来人・半島・大陸との往来」『渡来系移民』pp.143-200 岩波書店
- 岸本雅敏 1975 「裝飾付須恵器と首長墓」『考古学研究』第22巻第1号 (第84号) pp.34-59
- 木下 亘 2010 「日本列島出土の角坏をめぐって」『相山林継先生古希記念論集 日本基層文化論叢』pp.127-136 雄山閣出版
- 木下 亘 2011 「日本列島出土須恵器題の変遷とその特徴」『有孔小壺—古代人の願いと誓いが込められた神聖な土器—』pp.236-247 国立光州博物館・財)大韓文化遺産研究センター編
- 新庄町教育委員会 1988 『忍海寺口古墳群』新庄町教育委員会
- 都出比呂志 1983 「五世紀における古墳の様相」『向日市史』上巻 pp.160-162 向日市
- 柴垣勇夫 1987 「特殊須恵器の器種と分布」『愛知県陶磁資料館研究紀要』6 pp.11-26 愛知県陶磁資料館
- 中久保辰夫 2017 「第4章古墳時代中央政權の質的変化と生産組織1 手工業生産遺跡をめぐる近年の研究動向」『日本古代国家の形成過程と対外交流』p.183
- 野末裕之 1995 「特殊須恵器の器種と特徴」『古代の造形美裝飾須恵器展』pp.73-77 愛知県陶磁資料館
- 藤野一之 2019 「関東地方における古墳時代須恵器の研究」
- 石島和夫編 2019 『馬の考古学』雄山閣
- 光江 章 2014 「千葉県香取出土の二重題——大場磐雄著『樂石雜筆』より——」『國學院雑誌』第15巻 第1号 pp.1-19 國學院大學
- 光江 章 2022 「愛媛県の鈴鏡——西条市甲賀原古墳群の鈴鏡を端緒として——」『愛媛考古学』第26号 pp.81-98 愛媛考古学協会

山田邦和 1998 『須恵器生産の研究』学生社
山田光洋 1998 『樂器の考古学』同成社